

▲ 棚田嘉十郎関係資料の寄贈

平城宮跡保存運動の先覚者、棚田嘉十郎（1860年～1921年）関係の資料が奈文研に寄贈されました。嘉十郎の遺品など計20点です。これらは嘉十郎の死後、ご子孫によって大切に保管されてきましたが、このたび嘉十郎の孫の妻とその子にあたる棚田てる子氏・棚田正彦氏より、平城宮跡に関わりの深い奈文研に寄贈していただくこととなったものです。

棚田嘉十郎は奈良で植木職人をしていましたが、明治～大正時代、平城宮跡の重要性を訴え、第二次大極殿・朝堂院地域の保存運動には中心となって奔走しました。しかしその過程でのトラブルから自死



棚田嘉十郎翁遺影（寄贈資料より）

したという、まさに生命を平城宮跡保存に捧げた人物です。今回寄贈された資料は、嘉十郎の人柄・保存運動の実態を知ることができる貴重な資料です。今後、奈文研で大切に保管・活用していきます。

（文化遺産研究部）